

[総会資料と決定事項]

日本透析医会通常総会資料および主な決定事項

日本透析医会通常総会が平成19年5月20日（日）午後2時からホテルマイステイズ御茶ノ水（東京）にて開催された。以下に、その際の資料（抜粋）と主な決定事項を報告する。

（社）日本透析医会通常総会資料

- I 平成18年度事業報告書
- II 平成18年度収支決算書
- III 平成19年度事業計画書（案）
- IV 平成19年度予算（案）

平成19年度通常総会報告

（社）日本透析医会通常総会議事録

（社）日本透析医会役員名簿

(社) 日本透析医会通常総会資料

第1号議案

平成18年度事業報告書

第1会議

総会

1. 平成18年度通常総会

- 平成18年5月21日 第1号議案 平成17年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
第2号議案 平成18年度事業計画及び予算の承認を求める件
第3号議案 理事の辞任に伴う新理事の承認を求める件
第4号議案 その他

理事会

1. 平成18年5月21日

通常総会付議事項

- 第1号議案 平成17年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
第2号議案 平成18年度事業計画及び予算の承認を求める件
第3号議案 理事の辞任に伴う新理事の承認を求める件
第4号議案 顧問就任の承認を求める件

常任理事会

1. 平成18年4月28日

協議事項

- (1) 平成18年度診療報酬改定の対応に関するアンケート調査について

報告事項

- (1) 平成18年度厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合研究事業）国庫補助の交付基準等について
(2) 平成18年度日本財団助成事業の契約締結について

2. 平成18年5月21日

協議事項

- (1) 通常理事会及び通常総会に付議する議案等の審議について

- 第1号議案 平成17年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
第2号議案 平成18年度事業計画及び予算の承認を求める件
第3号議案 理事の辞任に伴う新理事の承認を求める件
理事辞任者：原田 知先生・工藤寛昭先生
後任者：山下達博先生・新里 健先生
監事辞任者：鈴木 満先生

後任者：今 忠正先生

第4号議案 その他（顧問就任の承認）

原田 知先生・工藤寛昭先生・鈴木 満先生

(2) 診療費改定の対応アンケート調査について

報告事項 (1) 会員数等の現況報告について
(2) その他

3. 平成18年6月24日

報告事項 (1) 平成18年度厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合研究事業）交付決定通知書について
(2) 会費別会員数（5月分）の報告について
(3) その他

4. 平成18年7月28日

協議事項 (1) 「透析医療災害対策メーリングリスト」への登録（東京海洋大学）について
(2) 推薦名義使用のお願い（中外製薬）について
(3) 貧血管理に関するアンケートの仮集計結果について
(4) 透析患者の終末期医療に対する考え方について

報告事項 (1) 平成17年度日本財団助成事業の会計監査について
(2) 平成18年度日本財団助成事業に係る関西圏、首都圏プロジェクト委員会報告について
(3) 厚生労働省疾病対策課への提出について
1) 平成17年度事業報告書および収支決算並びに平成18年度事業計画及び予算等の報告について
2) 役員改選の届出について
(4) 透析患者に対する特定疾患療養管理料の取扱いについて
(5) 旭メディカル社のダイアライザー供給停止について
(6) 6月分会費別会員数について

5. 平成18年9月22日

協議事項 (1) 当医会ホームページのリンクについて
(2) 災害情報ネットワークメーリングリストへの参加について
1) NHK
2) 全国腎臓病協議会
(3) 災害時医療における船舶の活用に関する日台国際セミナーについて

報告事項 (1) レセプト分析調査（中間報告）について
(2) 貧血管理に関してのアンケート結果（報告）について

6. 平成 18 年 10 月 7 日（臨時）
- 協議事項 (1) 日本医師会「社会保険診療報酬検討委員会」に対する日本透析医会の意見について
7. 平成 18 年 10 月 27 日
- 協議事項 (1) 日本透析医会 20 周年記念の開催について
- 報告事項 (1) レセプト分析調査について
(2) 委員会報告
1) 広報委員会
2) 研修委員会
(3) 諮問事項等に対する意見について
(4) 平成 18 年度中間決算について
(5) 医療ミスに対する賠償命令（津山第一病院）について
(6) その他
8. 平成 18 年 11 月 24 日
- 協議事項 (1) 日台科学技術セミナー（2007 年 1 月 14 日開催）の広報について
(2) 後期高齢者保険と透析医療について
- 報告事項 (1) レセプト分析調査の最終報告について
(2) 溶血事故報告について
(3) その他
9. 平成 18 年 12 月 22 日
- 協議事項 (1) 医会ホームページリニューアルについて
(2) 20 周年記念シンポジウムについて
- 報告事項 (1) 溶血事故のホームページ掲載について
(2) 第 3 回社会保険診療報酬検討委員会における討議事項について
(3) その他
10. 平成 19 年 1 月 26 日
- 協議事項 (1) レセプト調査報告の医会雑誌掲載内容について
(2) 20 周年記念シンポジウムについて
(3) 「透析医療保険審査委員懇談会」・「災害情報ネットワーク会議」の開催について
(4) 役員の改選について
(5) 後期高齢者医療に対する保険局医療課との話し合いについて
(6) 生活保護と更生医療について
(7) 参議院選挙における推薦について
(8) 病名のコード付けについて
(9) HBV 院内感染について

- 報告事項
- (1) 災害時透析医療対策部会について
 - (2) 厚生労働省疾病対策課による法人検査について
 - (3) その他

11. 平成 19 年 2 月 23 日

- 協議事項
- (1) 20 周年記念シンポジウムについて
 - (2) 全国腎臓病協議会と合同による透析関係調査（入院透析・患者送迎）について
 - (3) 平成 18 年度総会での質問（総会とセミナーを同日に出来ないか）について

- 報告事項
- (1) 厚生労働省健康局疾病課による法人立ち入り検査報告について
 - (2) 平成 18 年度仮決算について
 - (3) 広報委員会報告について
 - (4) 医療機器の保守管理に係る運用通知（概要案）について
 - (5) その他

12. 平成 19 年 3 月 23 日

- 協議事項
- (1) 平成 19 年度通常理事会および通常総会開催について
 - (2) 要望書（時間区分の復活）について
 - (3) 入院患者に関与するアンケートについて
 - (4) 研究助成審査基準及び助成規程について
 - (5) 平成 18 年度総会での質問（総会とセミナーを同日に出来ないか）について

- 報告事項
- (1) 「医師の患者への説明と責任」について
 - (2) 維持透析療法部会報告について
 - (3) 研修委員会報告について
 - (4) その他

第2 委員会

平成18年度委員会開催状況

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

委員会	開催年月日	備考
1. 適正透析療法委員会 (1) 適正透析導入部会 (2) 維持透析療法部会 (3) 適正透析普及部会 (4) 適正医療経済部会 (5) 医療廃棄物対策部会 (6) 在宅血液透析部会 (7) 医療制度検討部会	平成19年03月01日 平成18年06月30日 平成18年06月24日 平成18年07月07日 平成18年10月27日 平成19年03月23日 平成18年06月30日	保険審査懇談会 レセプト調査 レセプト調査 常任理事会と合同
2. 医療安全対策委員会 (1) 災害時透析医療対策部会 (2) 感染症対策部会 (3) 医療事故対策部会	平成18年06月24日 平成19年01月13日 平成19年03月08日	情報ネットワーク会議
3. 合併症対策委員会	平成18年08月02日	
4. 腎移植普及推進委員会		
5. 腎不全予防医学調査研究委員会		
6. 研修委員会	平成18年10月22日 平成19年03月11日	
7. 広報委員会	平成18年06月08日 平成18年10月12日 平成19年02月08日	
8. 情報管理委員会		
9. 内規委員会		
10. 倫理委員会		
11. 学会等助成審査委員会	平成18年04月28日 平成18年06月24日 平成18年09月22日 平成18年10月27日 平成18年11月24日 平成18年12月22日	
12. 学会等研究助成交付審査委員会	平成18年05月01日 平成18年06月28日 平成18年12月08日 平成19年01月10日	

平成 18 年度委員会報告

1. 適正透析療法委員会

(1) 適正透析導入部会

透析導入者審査委員会設置支部（愛知）に助成した。
報告については 19 年度の日本透析医会雑誌に掲載する。

(2) 維持透析療法部会

（平成 18 年度 1 回開催）

EPO 包括化による透析医療内容の変化および治療時間による診療報酬反映撤廃の影響について話し合いが行われた。

(3) 適正透析普及部会

（平成 18 年度 1 回開催）

支部長会議を開催し、18 年度診療報酬改定の対応について経緯を説明した。

(4) 適正医療経済部会

（平成 18 年度 3 回開催）

1) 透析医療費の分析調査について検討し、病院及び診療所（185 施設）の協力をいただき、平成 18 年 6 月分外来透析レセプトの集計が行われた。報告については、19 年度の日本透析医会雑誌に掲載する。

2) 第 11 回透析保険審査委員懇談会を開催した。事前にアンケートを行い、検討事項で 43 件、要望事項で 48 件と多くの回答をいただいた。

報告については、日本透析医会雑誌（Vol. 21-3）に掲載した。

(5) 医療廃棄物対策部会

（平成 18 年度 1 回開催）

1) 日本の医療廃棄物の現況について

2) 東京都に於ける医療廃棄物のシステムについて

3) 雑誌「臨牀透析」よりの原稿依頼について

4) 平成 16 年度千葉県における透析医療機関の現状に関するアンケート調査報告について

2. 医療安全対策委員会

(1) 災害時透析医療対策部会

（平成 18 年度 2 回開催）

1) 熱海市西南部で震度 5 弱（4 月 30 日）、広島県西南部・愛媛県・大分県で震度 5 弱（6 月 12 日）、大雨 2 件、台風（7 月 8 日 13 号）、東京千葉広範囲停電（8 月 14 日）、広島県呉市、江田島市等の水道送水施設の事故（8 月 28 日：3 施設に影響あり）、北海道太平洋沿岸津波警報（11 月 15 日）の自然災害において情報収集・伝達活動を行った。幸い大きな災害の発生はなかった。

2) 6 月 24 日第 7 回災害情報ネットワーク会議を行い、ネットワーク担当者 50 名の出席を得て開催され、年次報告および活動報告等を行った。

3) 8 月 31 日、第 7 回災害時情報伝達訓練を行い、35 都道府県 601 施設の参加を得た。

4) 情報システム・メーリングリスト保守管理

taisaku_ml 登録アドレス数 129

joho_ml 登録アドレス数 589

5) 「災害対策の検証」と「情報ネットワークの活動」、「慢性疾患患者に対する災害対策」について広く知ってもらうため各地域で講演を行った。

(2) 感染対策部会

(平成 18 年度 1 回開催)

1) 院内感染マニュアルの改訂について

- HCV の隔離・ベッド固定の扱いについて
- 2 人開始・終了と自動装置の関連について
- その他改訂すべき点について

2) 新型インフルエンザ対策の策定について

3. 合併症対策委員会

(平成 18 年度 1 回開催)

透析患者の合併症とその対策 No. 16「透析患者の骨代謝，二次性副甲状腺機能亢進症」の発刊等について検討し，3 月末に会員に送付した。

4. 腎移植普及推進委員会

社団法人日本臓器移植ネットワーク運営事業に協力した。

5. 腎不全予防医学調査研究委員会

平成 18 年度「血液透析患者実態調査」について事業協力した。
腎不全治療マニュアルの改定。

6. 研修委員会

(平成 18 年度 2 回開催)

(1) 支部医会の学術研究に助成した。

1) 広島県透析連絡協議会

研究課題：「慢性透析患者の動脈硬化性病変の進展に関与する要因について」

2) 奈良県透析医会

研究課題：「血液透析症例の体水分分布に関する研究について」

(2) 支部医会が開催した研修会・講演会に助成した。

支 部 名	会 場	開催年月日
宮城県透析医会	フォレスト仙台	平成 18 年 12 月 3 日
青森県透析医会	弘前市民文化センター	平成 18 年 6 月 4 日
鹿児島県透析医会	鹿児島医師会館	平成 18 年 5 月 13 日
島根県透析医会	出雲ロイヤルホテル	平成 18 年 4 月 8 日
愛知県透析医会	安保ホール	平成 18 年 11 月 26 日
大阪府透析医会	ホテル日航大阪	平成 18 年 8 月 5 日
長崎県透析医会	ホテルニュー長崎	平成 18 年 10 月 7 日

(3) (社) 日本透析医会シンポジウムを開催し 225 名が参加した。

「維持透析患者の消化管疾患」

日 時：平成 18 年 10 月 22 日 (日)

午前 9 時～午後 3 時 5 分

場 所：品川コクヨホール

司 会：平方秀樹（福岡赤十字病院）

秋澤忠男（昭和大学医学部）

講演者：深川雅史（神戸大学医学部附属病院）ほか 5 名

(4) (社) 日本透析医会研修セミナーを開催し 222 名が参加した。

日 時：平成 19 年 3 月 11 日（日）

午前 8 時 50 分～午後 3 時

場 所：品川コクヨホール

講演者：川西秀樹（医療法人あかね会土谷総合病院）ほか 5 名

(5) 19 年度のシンポジウムは 20 周年記念シンポジウムとして平成 19 年 10 月 21 日（日）品川プリンスホテルで開催することが決定した。講演内容はホームページに掲載済である。

また、研修セミナーは平成 20 年 3 月 2 日（日）品川コクヨホールで開催することが決定した。

7. 広報委員会

（平成 18 年度 3 回開催）

(1) 日本透析医会雑誌の企画・編集等について、討議された。

(2) 医会雑誌 Vol. 21 No. 1 発刊

- 1) 維持透析患者における腸管機能の特異性 overview—粘膜貧血・易出血性・吸収能・便通・便秘など—
- 2) 維持透析患者における顎口腔領域の合併症
- 3) 内視鏡検査・治療が有用な維持透析患者の消化管病変
- 4) 維持透析患者における腸管虚血
- 5) 維持透析患者における直腸・肛門疾患・憩室炎
- 6) 外科的治療が必要な維持透析患者の消化管病変
- 7) 透析患者の消化管周術期の経静脈栄養
- 8) 維持透析患者における薬剤性消化管障害—消化管疾患治療薬の使用上の注意—
- 9) 維持透析患者における悪性腫瘍
- 10) 維持透析患者における消化管疾患検診の年間スケジュール
- 11) 災害コーディネーターの必要性について
- 12) Preventable Death をなくすために—医療と情報の視点から—
- 13) 災害時透析医療対策としての地下水利用
- 14) 透析液清浄化基準の変遷と今後の目標
- 15) 慢性腎不全と血管石灰化
- 16) Fabry 病の診断と治療
- 17) 透析患者の睡眠障害に対する診断と治療
- 18) 透析患者の結核
- 19) 透析患者のスクリーニング検査からの教訓と問題点
—腹部 CT, 消化管内視鏡, PSA, BNP, HbA_{1c} などを中心に—
- 20) 血管吻合用カバー—AVF 作成を円滑に進めるために—
- 21) 第 9 回透析医療費実態調査報告
- 22) 2 階建て公的医療保険構想について

- 23) 医療法人制度改革の動向
 - 24) 透析患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携に関するアンケート調査
 - 25) 平成 16 年度千葉県における透析医療機関の感染性廃棄物の現状に関するアンケート調査 (第 5 報)
 - 26) 透析室勤務の看護師教育一病院・クリニックの状況を踏まえて一
 - 27) 透析医のひとりごと
医療制度改革の荒波の中で思う〈千葉県〉
透析導入患者は何故減らないの?〈高知県〉
 - 28) 支部だより〈福島県・山梨県・山形県〉
- (3) 医会雑誌 Vol. 21 No. 2 発刊
- 1) 維持透析患者の便秘対策—特に塩酸セベラマーとの関連—
 - 2) 透析患者の睡眠障害に対する診断と治療
 - 3) わが国のバスキュラーアクセスガイドラインを巡って
 - 4) 国際的診療ガイドライン KDIGO の現状と方向性
 - 5) β_2 -microglobulin 吸着療法の効果について
 - 6) 透析患者の冠疾患診断における冠動脈 CTA と MRA の現状
 - 7) 透析患者の冠動脈疾患治療の実際
 - 8) 透析医療環境における医療関連感染の予防—CDC ガイドラインに学ぶ対策と考え方—
 - 9) 豪雪地域における透析
 - 10) 企業、組織の危機管理と不祥事防止策について
 - 11) 災害時慢性疾患対応のあり方について
 - 12) calcimimetics の現況—新しい副甲状腺機能亢進症治療薬シナカルセト塩酸塩—
 - 13) 小児慢性腎不全診療の歩みと現況
 - 14) hepcidin: 血液透析患者における鉄代謝制御因子
 - 15) 培養腹膜中皮細胞の凝固線溶系因子, 血管新生因子産生および細胞内シグナル伝達系に与える各種透析液の影響について
 - 16) 生体試料中の化学分析
 - 17) 本邦の腹膜透析の現況と今日的課題
 - 18) 「透析者のくらしと医療」を読んで
 - 19) 書評「透析者のくらしと医療」
 - 20) 日本透析医会通常総会資料および主な決定事項
 - 21) 透析医のひとりごと: 腎不全治療への思い〈新潟県〉
 - 22) 支部だより〈岡山県・熊本県〉
- (4) 医会雑誌 Vol. 21 No. 2 別冊発刊
- 1) 平成 17 年度厚生労働科学研究費補助金 (医薬安全・医療技術評価総合研究事業)
総括報告書
透析施設におけるブラッドアクセス関連事故防止に関する研究
 - 2) 平成 17 年度日本財団助成事業
災害時医療支援船の実現化に向けた調査・運用訓練の実施 報告書
災害時医療支援船構想 2005 報告記録集
- (5) 医会雑誌 Vol. 21 No. 3 発刊
- 1) 第 11 回透析保険審査委員懇談会について
 - 2) 第 7 回災害情報ネットワーク会議および情報伝達訓練実施報告

- 3) 浦河 QQ Index 2006—浦河 QQ Index (Quick Quake Index) 2004 の改訂—
- 4) 平成 18 年度改定に対する透析医療施設の対応, 及びエポ包括化に伴う貧血管理の変化
- 5) 海外渡航移植
- 6) 在宅血液透析の現況
- 7) 透析管理のターミナルケアに関する医師の意識調査
- 8) 医療における統計学の功罪
- 9) ABO 血液型不適合腎移植
—ABO 血液型関連抗原による急性抗体関連型拒絶反応の分類とその治療戦略—
- 10) 非血縁腎移植例の臨床的検討とその倫理諸問題に関する考察
- 11) 急性腎不全—病態と治療の課題—
- 12) 透析患者における造影剤の使い方
- 13) 糖尿病透析患者における血糖コントロール
- 14) 今後の臨床工学技士養育と透析医療
- 15) 電子カルテの現状と透析医療
- 16) 透析施設における感染症—院内感染とその対策—
- 17) 診療報酬改定と今後の透析医療
- 18) 糖尿病性腎症による慢性腎不全におけるアセテートフリーバイオフィルトレーション (AFBF) の効果と血圧安定化機序の解明
- 19) 透析導入見送り・維持透析中止の決定過程における患者・家族・透析医の心理的ダイナミクス
- 20) 透析医のひとりごと：透析医雑感〈山梨県〉
- 21) 支部だより：〈和歌山県・岩手県・大阪府〉

8. 学会等助成審査委員会

(平成 18 年度 5 回開催)

以下のとおり学会及び調査研究について申請を受け, 審査した.

学 会 等	開 催 日
第 27 回日本アフェレシス学会学術大会 第 6 回国際アフェレシス学会学術大会 第 11 回世界アフェレシス学会連合世界会議	平成 19 年 3 月 2 日～4 日
第 10 回アクセス研究会 (増額申請)	平成 18 年 9 月 2 日～3 日
第 17 回日本サイコネフロロジー研究会 (増額申請)	平成 18 年 6 月 3 日～4 日
第 18 回日本サイコネフロロジー研究会	平成 19 年 6 月 2 日～3 日
第 17 回日本急性血液浄化学会大会 (増額申請)	平成 18 年 10 月 5 日～7 日
第 13 回日本腹膜透析研究会	平成 19 年 11 月 24 日～25 日
第 9 回アクセスセミナー in 札幌	平成 19 年 7 月 8 日

研究課題	研究目的等
生食置換返血実施時における rh-EPO 製剤の至適投与タイミングの検討	返血3分前 rh-EPO 投与が最適な投与タイミングであるのか、施設間、回路、透析条件、rh-EPO 剤型などの違いによって、この結果が異なるかどうか、最適な投与タイミングを検討する。
透析施設における至適腎移植啓発方法の研究	透析施設における至適腎移植啓発方法の検討を行い、全国的な腎移植推進のモデルケース構築を目的とする。
緊急事態における血液浄化及び発展途上国における安価な血液浄化の研究（増額申請）	大規模災害時に圧挫症候群を生じた被災者並びに透析センターを失った透析患者に対して、災害時の救命率向上に寄与する。
維持透析患者の悪性腫瘍罹患調査	維持透析患者の悪性腫瘍罹患率を明らかにすること
<ul style="list-style-type: none"> ・血液音における周波数の時間的変動を指標とするバスキュラアクセスの音響学的評価 ・IIs 型糖尿病性腎症の発症・進展に関与する遺伝子の解明 ・糖尿病による透析導入をアウトカムとする臨床疫学的研究 ・GCP に準拠した透析液品質保証システムのクリニックレベルでの確立 ・首都直下地震発生時および被災後の透析施設および透析関係者の具体的な対応指針づくりのための調査分析 	公募助成

9. 学会等研究助成交付審査委員会

（平成 18 年度 1 回開催，FAX による審査 3 回）

以下のとおり学会及び調査研究について審査した。

学会等	開催日
第 27 回日本アフェレシス学会学術大会 第 6 回国際アフェレシス学会学術大会 第 11 回世界アフェレシス学会連合世界会議	平成 19 年 3 月 2 日～4 日
第 10 回アクセス研究会（増額申請）	平成 18 年 9 月 2 日～3 日
第 17 回日本サイコネフロロジー研究会（増額申請）	平成 18 年 6 月 3 日～4 日
第 18 回日本サイコネフロロジー研究会	平成 19 年 6 月 2 日～3 日
第 17 回日本急性血液浄化学会大会（増額申請）	平成 18 年 10 月 5 日～7 日 増額申請
第 13 回日本腹膜透析研究会	平成 19 年 11 月 24 日～25 日
第 9 回アクセスセミナー in 札幌	平成 19 年 7 月 8 日

研究課題	研究目的等
生食置換返血実施時における rh-EPO 製剤の至適投与タイミングの検討	
透析施設における至適腎移植啓発方法の研究	
緊急事態における血液浄化及び発展途上国における安価な血液浄化の研究 (増額申請)	
維持透析患者の悪性腫瘍罹患調査	
<ul style="list-style-type: none"> • 血液音における周波数の時間的変動を指標とするバスキュラアクセスの音響学的評価 • II型糖尿病性腎症の発症・進展に関する遺伝子の解明 • 糖尿病による透析導入をアウトカムとする臨床疫学的研究 • GCP に準拠した透析液品質保証システムのクリニックレベルでの確立 • 首都直下地震発生時および被災後の透析施設および透析関係者の具体的対応指針づくりのための調査分析 	公募助成

平成 18 年度収支決算書

1. 収支計算書（平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	平成 18 年予算	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
1. 入会金収入	900,000	750,000	150,000	
2. 会費収入	90,350,000	87,950,000	2,400,000	
3. 寄付金収入	81,460,000	53,700,000	27,760,000	
4. 助成金収入		14,100,000	-14,100,000	
5. 参加費収入	400,000	447,000	-47,000	
6. 受取利息	1,000	15,505	-14,505	
当期収入合計 (A)	173,111,000	156,962,505	16,148,495	
前期繰越収支差額	6,791,000	71,048,098	-64,257,098	
収入合計 (B)	179,902,000	228,010,603	-48,108,603	
II 支出の部				
1. 事業費				
透析医療適正化事業費	14,145,000	9,029,827	5,115,173	
医療安全対策委員会	8,552,000	3,594,944	4,957,056	
合併症対策委員会	4,062,000	5,109,093	-1,047,093	
腎移植普及推進事業費	6,058,000	6,111,839	-53,839	
腎不全予防医学調査研究費	6,177,000	4,793,601	1,383,399	
研修等事業費	10,654,000	9,846,466	807,534	
広報活動費	14,889,000	15,014,486	-125,486	
倫理委員会	172,000	0	172,000	
学会・研究助成審査委員会	59,348,000	60,962,604	-1,614,604	
学会・研究助成交付審査委員会	299,000	8,220	290,780	
日本財団事業	23,993,000	24,207,673	-214,673	
事業費合計	148,349,000	138,678,753	9,670,247	
2. 管理費				
人件費	13,065,000	13,186,307	-121,307	
家 賃	2,335,000	2,333,076	1,924	
その他経費	6,375,000	5,996,619	378,381	
管理費合計	21,775,000	21,516,002	258,998	
3. 引当金預金支出	350,000	489,250	-139,250	
4. 予備費				
基本財産組入額	2,000,000	0	2,000,000	
当期支出合計 (C)	172,474,000	160,684,005	11,789,995	
当期収支差額 (A)-(C)	637,000	-3,721,500	4,358,500	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	7,428,000	67,326,598	-59,898,598	

2. 正味財産増減計算書（平成18年4月1日から平成19年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 資産増加額			
固定資産（銀行預金）増加額	7		
退職引当預金増加額	489,250	489,257	
増加の部合計			489,257
II 減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	3,721,500	3,721,500	
2. 負債増加額			
退職引当金繰入額	489,250	489,250	
減少の部合計			4,210,750
当期正味財産減少額			3,721,493
前期繰越正味財産			239,966,352
期末正味財産合計額			236,244,859

3. 貸借対照表（平成19年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 流動資産			
現金預金	67,910,894		
前払金	138,600		
仮払金	66,700		
流動資産合計		68,116,194	
2. 固定資産			
(1) 基金			
研究助成事業基金普通預金	162,004,889		
基金合計	162,004,889		
(2) その他の固定資産			
電話加入権	563,372		
淡路建物ビル保証金	6,300,000		
警備保証金	50,000		
退職給与引当預金	4,923,288		
その他の固定資産合計	11,836,660		
固定資産合計		173,841,549	
資産合計			241,957,743
II 負債の部			
1. 流動負債			
会費預り金	170,000		
所得税預り金	315,460		
住民税預り金	60,700		
健康保険預り金	57,484		
厚生年金預り金	185,952		
流動負債合計		789,596	
2. 固定負債			
退職給与引当金	4,923,288		
固定負債合計		4,923,288	
負債合計			5,712,884
III 正味財産の部			
正味財産			236,244,859
（うち当期正味財産減少額）			(3,721,493)
負債及び正味財産合計			241,957,743

4. 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 退職引当金の計上基準について

期末退職給与の要支給額に担当する金額を計上することになっている。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、仮払金、未払金、及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	71,874,297	67,910,894
前払金	0	138,600
仮払金	66,700	66,700
合 計	71,940,997	68,116,194
会費預り金	288,000	170,000
所得税預り金	403,586	315,460
住民税預り金	55,900	60,700
健康保険預り金	54,684	57,484
厚生年金預り金	90,729	185,952
合 計	892,899	789,596
次期繰越収支差額	71,048,098	67,326,598

5. 財産目録（平成19年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
1) 現預金		
現金 現金手許有高	29,677	
郵便振替	1,253,439	
普通預金 三菱東京UFJ銀行神田駅前支店	1,264,833	
三菱東京UFJ銀行定期口神田駅前支店	60,451,815	
みずほ銀行神田支店	21,810	
三井住友銀行神田支店	1,002	
りそな銀行神田支店 1437634	2,049	
りそな銀行神田支店 1437642	382,487	
りそな銀行神田支店 1441461	600,661	
りそな銀行神田支店 1458648	203	
りそな銀行神田支店 1455768	3,483,866	
りそな銀行神田支店 0984222	419,039	
りそな銀行神田支店 1474603	13	
現預金合計	67,910,894	
2) その他流動資産		
前払金	138,600	
仮払金	66,700	
その他流動資産合計	205,300	
流動資産合計		68,116,194
II 固定資産		
1. 基金		
研究助成事業基金普通預金	162,004,889	
基金合計	162,004,889	
2. その他固定資産		
電話加入権	563,372	
保証金 淡路建物ビル保証金	6,300,000	
警備保証金	50,000	
退職給与引当預金	4,923,288	
その他の固定資産合計	11,836,660	
固定資産の部合計		173,841,549
資産の部合計		241,957,743
III 負債の部		
1. 流動負債		
年会費預り金	170,000	
職員等に対する源泉所得税預り金	315,460	
職員等に対する住民税預り金	60,700	
職員等に対する健康保険預り金	57,484	
職員等に対する厚生年金預り金	185,952	
流動負債合計		789,596
2. 固定負債		
退職給与引当金	4,923,288	
固定負債合計		4,923,288
負債の部合計		5,712,884
正味財産		236,244,859
負債及び正味財産合計		241,957,743

平成 18 年度管理費内訳

(単位：円)

	平成 18 年度	按分率	按 分	
			管理費	事業費
人 件 費	26,372,615		13,186,307	13,186,308
給 料	20,681,229	50%	10,340,614	10,340,615
賃 金	2,750,000	50%	1,375,000	1,375,000
法定福利費	2,509,566	50%	1,254,783	1,254,783
通 勤 費	431,820	50%	215,910	215,910
家 賃	4,666,152	50%	2,333,076	2,333,076
その他経費	13,436,059		5,996,619	7,439,440
旅費交通費	601,520	50%	300,760	300,760
会 議 費	3,720		3,720	0
交際接待費	0		0	0
福利厚生費	174,954	50%	87,477	87,477
印刷製本費	245,175	50%	122,587	122,588
通信運搬費	944,245	50%	472,122	472,123
事務・消耗品費	2,122,235	50%	1,061,117	1,061,118
委 託 費	1,864,230	50%	932,115	932,115
報酬（要源泉）	1,200,000	50%	600,000	600,000
諸 謝 金	266,664		266,664	0
水道光熱費	347,363	50%	173,681	173,682
諸 会 費	275,275	50%	137,637	137,638
租 税 公 課	3,000		3,000	0
慶 弔 費	0		0	0
雑 費	514,372	50%	257,186	257,186
常任理事会費	3,160,959		322,431	2,838,528
総会・理事会費	799,897		799,897	0
ホームページ管理費	912,450	50%	456,225	456,225
合 計	44,474,826		21,516,002	22,958,824

監査報告書

社団法人日本透析医会の平成18年度決算報告につき慎重に監査した結果
妥当なものと認めます。

平成19年4月13日

社団法人 日本透析医会

監事

今 忠正 

監事

岩月史郎 

監事

伊原善好 

社団法人 日本透析医会

会長 山崎親雄 殿

第2号議案

平成19年度事業計画書（案）

事業計画の概要

1. 透析医療の適正化に関する調査研究事業

適正な透析療法の検討に関する調査・研究

適正透析療法委員会 [委員会のもとに7部会を置く]

① 透析療法の質的向上と普遍化を目的とする調査・研究

(1) 適正透析導入部会

適正な導入時期に関する調査・研究

(2) 維持透析療法部会

適正な維持透析療法に関する調査・研究

(3) 適正透析普及部会

適正な透析療法の普及推進を行う

(4) 適正医療経済部会

適正な透析医療経済に関する調査・研究

1) レセプト分析

2) 施設機能評価の調査・研究

(5) 医療廃棄物対策部会

・医療廃棄物対策に関する調査・研究

(6) 在宅血液透析部会

在宅治療（CAPD・在宅血液透析等）の適応基準の調査・研究

(7) 医療制度検討部会

・医療制度における透析医療との関連に関する調査・研究

2. 地域医療システムに関する調査研究事業

透析施設間の相互連携による地域透析医療システムを確立するための調査・研究

① 危機及び災害時における救急透析医療システムの作成に関する調査・研究

医療安全対策委員会 [委員会のもとに3部会を置く]

(1) 災害時透析医療対策部会

・平成14年度より、災害対策規程及び災害情報運用規則を設け、地域災害対策推進の拡大を図って来た。平成17年度は、昨年度まで運営してきた「危機管理メーリングリスト」を終了して、医会会員とその所属する施設で災害対策に関わっている者が参加する「災害時ネットワークメーリングリスト」と、関係団体の災害対策担当者、および行政関係の担当者をメンバーとする「透析医療災害対策メーリングリスト」を新たに開設した。

・平成19年度は、引き続きブロック別災害時救急透析医療システムの構築を図るとともに災害時情報ネットワークへの参加を推進していく。

(2) 感染症対策部会

院内感染実態調査及び感染防止対策の調査・研究

(3) 医療事故対策部会

- ・医療事故実態調査及び事故防止対策の調査・研究

② 長期透析患者の合併症に対する調査・研究

合併症対策委員会

- (1) 透析導入の初発原因（原疾患・病因等）に関する調査・研究
- (2) 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究
- (3) 患者の長期生存に伴い発生する合併症及びその原因に対する調査・研究

3. 国等公的機関の実施する透析医療科学研究推進事業

厚生科学研究推進委員会

[委員会のもとに1部会を置く]

透析医療IT化推進部会

① 平成19年度厚生労働科学研究計画について

- ・医療技術評価総合研究事業「透析施設におけるブラッドアクセス関連事故防止に関する研究」（3年計画の3年目）について申請中

② 平成19年度日本財団助成金による研究計画について

- ・災害時医療支援船の実現に向けた調査・運用訓練の実施（3年計画3年目）

4. 学術調査研究会等特定公益増進法人助成推進事業

学会等研究助成審査委員会

（助成先の適合審査の実施）

学会等研究助成交付審査委員会

（助成金の交付審査の実施）

- ① 平成18年度は、公募による研究助成5件を含む18件の助成推進事業を実施した。引き続き、特定公益増進法人として助成推進事業の充実、拡大を図っていく。

5. 腎移植普及推進に関する事業

腎移植普及推進委員会

① 会員及び患者に対しての協力・普及を目的とする。

- (1) 臓器移植推進月間・腎バンク及び地方腎移植推進システムへの協力
- (2) 会員に対する腎移植の啓発・教育
（脳死問題を含む講演会及び腎移植広報活動等）
- (3) 患者に対する腎移植推進
（会員の日常業務として、地区患者を対象とする推進協力）
- (4) 関係団体への協力事業
（医療施設や遺族に対するドネーションの啓発）
- (5) 腎移植コーディネーター問題の研究

6. 腎不全予防医学の調査研究事業

腎不全予防医学調査研究委員会

① 透析導入を予防し、残腎機能を維持させるための調査・研究

- ・透析導入前の慢性腎不全患者に対する保存的維持療法の調査・研究及び関係団体への協力について推進する。

7. 研修等事業

研修委員会

- (1) 腎不全臨床医療スタッフの研修会（シンポジウム，セミナー）の開催
- (2) 学術研究への協力
- (3) 関係学会・団体との研究協力
- (4) 国内講演会等の開催

8. 広報活動及び刊行物の発行に関する事業

広報委員会

① 機関誌等の発行

- (1) 医会雑誌（年3回発行）
内容充実に一層の努力をする。
- (2) 医会ニュース・速報等
必要の都度，発行する。

9. 会員の教育・研修及び倫理向上に関する調査研究事業

倫理委員会

① 会員の倫理向上に関する調査・研究

10. 情報の公開等適正管理及び情報管理に関する事業

情報管理委員会

① 本会が保有する文書，図画，図面及び電磁的記録等の情報公開の管理，適正保管及びその創意工夫等の調査研究

- ・平成14年度より，情報管理規程を設け，情報公開等の適正活用を推進している。引き続き既存ホームページの内容の充実と関係団体への情報提供の拡大を図る。18年度は，新情報をいち早く知って頂くために希望する会員への同報メールシステムを開始した。

平成19年度予算（案）

[収入の部]

(単位：千円)

区 分	平成18年度予算	平成19年度予算(案)	増 減
1. 入会金収入	900	900	0
2. 会費収入	90,350	91,000	650
3. 寄付金収入	81,460	137,400	55,940
4. 参加費収入	400	425	25
5. 受取利息	1	20	19
6. 前年度繰越金	6,791	7,428	637
計	179,902	237,173	57,271

[支出の部]

(単位：千円)

区 分	平成18年度予算	平成19年度予算(案)	増 減
1. 事業費	148,349	196,053	47,704
2. 管理費	21,775	22,950	1,175
3. 退職引当金預金支出	350	802	452
4. 予備費	2,000	2,000	0
5. 次年度繰越金	7,428	15,368	7,940
計	179,902	237,173	57,271

支出の部内訳

(単位：千円)

区 分	平成 18 年度予算	平成 19 年度予算 (案)	%	増 減
I 事業費 (調査研究事業費)	148,349	196,053		47,704
1. 適正透析療法委員会				
(1) 適正透析導入部会	594	572	0.29	-22
(2) 維持透析療法部会	933	686	0.35	-247
(3) 適正透析普及部会	1,361	1,315	0.67	-46
(4) 適正医療経済部会	9,426	9,318	4.75	-108
(5) 医療廃棄物対策部会	729	697	0.36	-32
(6) 在宅血液透析部会	492	492	0.25	0
(7) 医療制度検討部会	610	617	0.31	7
2. 地域透析医療システム				
(1) 災害時透析医療対策部会	7,186	5,785	2.95	-1,401
(2) 感染対策部会	844	583	0.30	-261
(3) 医療事故対策部会	522	526	0.27	4
3. 合併症対策委員会	4,062	3,487	1.78	-575
4. 腎移植普及推進委員会	6,058	6,882	3.51	824
5. 腎不全予防医学調査研究委員会	6,177	5,963	3.04	-214
6. 研修委員会	10,654	23,391	11.93	12,737
7. 広報委員会	14,889	15,228	7.77	339
8. 情報管理委員会	0	0		0
9. 内規委員会	0	0		0
10. 倫理委員会	172	180		8
11. その他の事業				
(1) 学会・研究助成審査委員会	59,348	89,175	45.48	29,827
(2) 学会・研究助成交付審査委員会	299	288	0.15	-11
(3) 日本財団事業	23,993	30,868	15.74	6,875
II 管理費				
1. 人件費	13,065	13,470		405
2. 家賃	2,335	2,500		165
3. その他の経費	6,375	6,980		605
III 退職引当金預金支出	350	802		452
IV 予備費	2,000	2,000		0
V 固定資産取得支出	0	0		0
VI 次年度繰越金	7,428	15,368		7,940
計	179,902	237,173		57,271

管理費内訳

(単位：円)

	平成19年度 (案)	按分率	按 分	
			管理費	事業費
人 件 費	26,940,000	50%	13,470,000	13,470,000
給 料	20,800,000	50%	10,400,000	10,400,000
賃 金	3,000,000	50%	1,500,000	1,500,000
法定福利費	2,700,000	50%	1,350,000	1,350,000
通 勤 費	440,000	50%	220,000	220,000
家 賃	5,000,000	50%	2,500,000	2,500,000
その他経費	15,555,000	50%	6,980,000	8,575,000
旅費交通費	800,000	50%	400,000	400,000
会 議 費	100,000		100,000	0
交際接待費	50,000		50,000	0
福利厚生費	180,000	50%	90,000	90,000
印刷製本費	400,000	50%	200,000	200,000
通信運搬費	1,200,000	50%	600,000	600,000
事務・消耗品費	2,200,000	50%	1,100,000	1,100,000
委 託 費	1,900,000	50%	950,000	950,000
報酬(要源泉)	1,300,000	50%	650,000	650,000
諸 謝 金	300,000	50%	150,000	150,000
水道光熱費	350,000	50%	175,000	175,000
諸 会 費	300,000	50%	150,000	150,000
租 税 公 課	5,000		5,000	0
慶 弔 費	50,000		50,000	0
雑 費	420,000	50%	210,000	210,000
常任理事会費	3,200,000		300,000	2,900,000
総会・理事会費	800,000		800,000	0
ホームページ管理料	2,000,000	50%	1,000,000	1,000,000
管 理 費 計	47,495,000		22,950,000	24,545,000

平成 19 年度通常総会報告

山崎親雄会長挨拶

本日はご多忙にもかかわらず、ご出席いただきましてありがとうございます。

理事会でもお話させていただきましたが、透析患者は依然として増加しております。人口の 500 人に 1 人くらいという患者数になっています。中でも糖尿病性腎症が約 8 万人となりました。ただ、個人的にはもう少し学術的な検討が必要かなと思います。といいますのは、たとえば糖尿病性網膜症を合併しない糖尿病性腎症が数多くカウントされているのではないかとと思われるためです。今後は、糖尿病性腎症の増加というよりも、むしろ腎硬化症患者増加の方が問題となると考えています。何れにしましてもしばらくの間は、後期高齢者を含む高齢者透析が増加するという状況が続きます。そうしますと、社会保障費が増えない限り 1 人当たりの医療費は下がるという図式が考えられます。

われわれが 2002 年に日医総研と共同研究しました「透析医療におけるランドデザイン」によれば、当時の患者数約 23 万人から、2010 年に 26 万人、2020 年に 32 万人になると予測しました。しかし 2006 年末に 26 万人となれば予測より大幅に増加することになりそうです。一方、15 年生存率は明らかに低下しておりますし、10 年生存率、5 年生存率も低下してくることでしょう。

そういったなかで、つい先日、経済財政諮問委員会では、改めて新しい社会保障制度に関する提案がされています。今後、これに基づき、かなり厳しい医療費抑制策が出てくることが予想されます。たとえば、従来ですと、現時点で二千何百億減らせというような、具体的な数字目標がでてきたのですが、今年はそういうのが出てきておりません。小泉前首相と安倍首相の差でしょうか。ただ、いつかはそういう問題がでてくるのかなと考えております。

さて今年度末には、改めて診療報酬改定があり、もう一つは、いったいどんなものが出てくるか想像もできないような後期高齢者保険制度が新設されます。後期高齢者すなわち 75 歳になったからといって、74 歳までの透析と比べて、例えば安い透析ができるかという、決してそんなことはできませんし、そんなことがあってはいけなと考えております。しかし、後期高齢者保険制度全体としては、やはり医療費の抑制を頭に入れ、なおかつ方向としてはできる限りの包括という噂が飛んでおりますので、そういった中で果たして透析医療がどうなっていくのか、見守っていかなければなりませんし、日本透析医会からも提案していかなければいけないと考えております。

ところで、昨年診療報酬改定について、常任理事会では EPO 包括に関するアンケート調査を実施しました。他に全腎協の調査結果も出されましたが、鉄剤の使用が増え、EPO の使用が 2 割減少しました。しかしながら平均的なヘモグロビンは維持している、これはまさに質の高い治療を維持している結果だと思います。日本透析医学会統計調査結果がまもなく報告されますが、同様の結果が得られるものと信じています。この包括の問題というのは、包括された時点で、それに対して診療を担当するお医者さんがどのように対応するのかということが試された問題だと思います。経済的理由で EPO の使用が減り、貧血がだんだん悪くなっていくという危惧がありました。ただ、私個人としましては、決して日本のお医者さんはそういう対応をしないとっております。

最後になりますが、今後透析に関しても大きな治療環境の変化がくるかもしれません。「Japan Medicine」あるいは「MEDIFAX」で情報が流れましたが、全国で夜間透析を中止している公的病院がどんどん増えてきているとか、あるいは夜間透析のみならず透析医療そのものを放棄する施設も出てきました。これはお医者さんを確保できない問題、もう一つは経営的に維持できないということだと思います。民間ですと後継者がいなくて透析医療機関そのものを廃院するところもでてきています。こういう問題に対して日本透析医会は何らかの考え

方をしめさなければいけないのかなと思っております。何れにしろ、透析は、解決を迫られている沢山の問題をかかえております。ぜひ引き続きご協力を賜りまして、わが国の透析のあるべき姿を提示していればと考えております。

本日の総会の議事に対して充分ご審議いただくことをお願いしてご挨拶にかえさせていただきます。

議長選出

吉田豊彦 副会長 を選出

議事録署名人選出

鈴木正司 常務理事

小野山攻 常務理事 を選出

議 事

第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第2号議案 平成19年度事業計画及び予算の承認を求める件

第3号議案 役員の任期満了に伴う新役員の承認を求める件

第4号議案 その他

以上について審議し承認された。総会での質疑応答に関して次のように「Q & A」方式でまとめた。

総会での質疑応答

1. Q：昨年の総会において、セミナーと総会を一緒の日に行っていただきたいという意見が出ましたが、その結果については来年度のセミナーが3月2日ということですので一緒にできないということのようですが、その理由をお聞かせください。
A：実際にセミナーへ出れば1日がかりになるということ、総会も総会前に常任理事会、および理事会で承認する作業を終了して総会へのぞみますので1日がかりとなります。時間的な余裕がありません。
A：一つはセミナーの内容をみまますとお分りいただけると思いますが、途中で2時間を入れることはなかなか難しい問題があること、もう一つは総会を開くためには決算がでなくてはなりませんので、この時期しかありません。そうしますとこの時期は関連する学会、日本透析医学会、日本腎臓学会などのイベントが集約されています。したがって、セミナーをこの時期に移せないだろうと考える次第です。
Q：半分納得できます。関連学会が近いというご意見が主と思いますが、学術セミナーは無意味とは言いませんが、最近では学術講演会が沢山あって、学術的な部分についてはそちらに任せてもいいのではと思っております。
それよりもやはり医会の目的である医療現場への提言とか、医療経済的なセミナーをしても良いのではと考えますが、如何でしょうか？
A：これはかなり難しい、少し検討しないとお答えできませんね。
Q：こういう意見もあるということ踏まえてご検討いただきたいと思えます。
2. Q：ただいまの事業計画を伺っていると、来年度の診療報酬改定に関する取り組みというのは何もなかったようですが、医会としてはどういう項目について要求、要請をするのでしょうかお聞かせ願いたい。
A：適正医療経済部会というところで検討をします。高齢者の問題が非常に大きな問題ですので検討したいと考えております。
A：従来からの懸案事項であります、透析時間区分の復活を主に要望してまいりました。今年もそのつもりで準備をすすめていまして、透析医学会の方に一緒にその要望書を提出しませんかという話をさせていただきました。充分検討した上でということになっています。ただ新設される後期高齢者保険制度の中

で、透析時間区分が復活しますと、75歳以上の高齢者の透析はもしかすると短時間透析でよしとされ、低い点数が設定される可能性もあるという危惧をもって、現時点ではまだ正式な要望書を作っておられません。

6月の透析医学会の時期に合わせて、毎年保険審査委員会を開催しております。この委員会は各地区で保険審査委員を担当してもらっている先生方にお集まりいただき、レセプト上の問題点を検討しておりますが、来年の診療報酬改定に対する要望事項も一緒に調査しています。医会の基本的な考え方である時間区分の問題と同時に、そこから上がってくる問題について論議したうえでまとめたいと考えています。最終的には、透析医会は厚生労働省の認可法人ですから、従来通り10月半ばぐらいまでに厚労省へ要望書を持っていくと受け取っていただけ、一緒に検討できると認識しており、そういうスケジュールでこれから要望を集めていきたいと考えております。

Q：ありがとうございます。まさに後期高齢者の包括化の問題はどのように出てくるのか、まったくわからないので難しいと思いますが、ただ時間区分については検討をお願いします。十分な透析をするというのが透析医療の目標ということであれば、長時間透析に加算することを要望しても良いかもしれません。

3. Q：国でCKD対策を始めるということに対して執行部には何かお考えがありますでしょうか？

A：透析医会としてはCKD対策について考えていかなければならないと考えておりますが、直接それに対して大きく関与していくことは今のところ計画しておりません。一方、全腎協との話し合いのなかで、具体的なCKD対策ではなくて、わが国の腎疾患対策について、たとえば移植をどのように普及していくか、あるいは保存療法をどのように考えながら透析導入患者を減らしていくかといった勉強会を、疾病対策課に呼びかけ、いままで2度開催しております。今後もCKDキャンペーンとは別に、この勉強会を継続したいと考えております。

4. Q：会長の初めの挨拶で今後施設数が減るというようなことが述べられていたと思いますが、会員数が減れば予算のほうも減るのではないのでしょうか？何か矛盾しているように思えますが。

A：全国的には透析医学会の調査をみますと、まだ施設数は増えています。ただ増え方が少し減ってきています。透析医会の会員数も、退会される施設、廃院される施設と入会される施設数のバランスをみますと、少し増えています。したがって無理やりの予算ではありません。

5. Q：細かいことですが、慶弔費は何につかうのでしょうか？これは職員の慶弔費ですか？

A：そうです、これは職員の慶弔費です。

6. Q：会費の納入率は何パーセントぐらいあるのですか？

A：95%は納入していただいております。ただあとの5%のなかには、もう1年、2年続けて払わない方がおられます。

Q：この会費納入のことについて、各県の透析医会に入れば、自動的に日本透析医会に入るようにしたほうが風通しが良くなっていいのではないかと思います。それは技術的に難しいのでしょうか？

A：その方式は最も望ましいかたちではないかと思えます。例えば日本医師会は、地区医師会費、都道府県医師会費、日本医師会費とすべてひっくるめて納入しています。

ただ、透析医会がそういうかたちをとりますと、もしかすると各支部の会員数が激減するのではないかと、半減するのではないかとこのことを危惧しています。

もちろん日本透析医会としてのそういう活動も大事なのですが、支部のなかには学術的な研究会として存在する支部もあれば、そうではない役割をもっている支部もあります。そう考えると今のところやむを得ないかなと考えます。

Q：これは会費納入の問題ではなくて、組織率が低いということが問題なので、組織率を上げるためにはやはり日本透析医会の会費をもう少し下げて、広く浅くとれるような方法ができれば良いのではと思いま

すが如何でしょうか？

A：会費を安くして組織率を上げることに關しては、過去どれだけ考えてきたかわかりません。ただ、その時点その時点での考え方のなかでは、むしろそのほうが非現実的なかと思っております。今まで活動してきた内容を縮小してでも会員数が多いほうが良いという考え方には今のところ至っておりません。従来の内容を続けていくためにこれだけのものがあるとすると、会費を下げても新しく入ってくる会員数を予測したとき、その収入が保証できるかという、なかなか難しいのではないかというのが現在の考え方です。3年前に会費を下げさせてもらいましたが、現在実施している事業を削減しないとこれ以上は下げられないというのがわれわれの考え方です。

7. Q：高齢者の収容施設の連携についての問題ということを医療活動目標に書いてありますが、高齢者がどんどん増えているわけだし高齢者対策というのを医会でももう少し具体的にやっていかないと間に合わないのではないかと思います。

具体的には、高齢者の増加とともに通院手段が確保できない高齢者が増えているという問題は見過ごすことができません。そのことに対する医会の対策、対応を教えてください。

A：通院の問題もさることながら入院のほうが大きな問題だと思っております。療養型病床の削減、介護療養病床の廃止という中で、入院透析をどう確保するかという問題の検討を始めております。ベッド数そのものに限界がありますのでまずは実態調査から始めております。太田常務理事が担当で、これから調査結果を出せると思います。

8. Q：役員の件ですが、地方選出の理事は、地方で選挙なり推薦なりして決めていただきたいをお願いしてきましたが、まだ取り上げていただけないのですが。

ここに名前が出ておられる先生方は皆さんご立派な方ばかりなので内容についてとやかく言うことではありませんが、地方独自で決めてこないで会員、会員数などにも影響がでるのではないのでしょうか？

A：例えば、九州なんかは具体的に九州ブロックとして理事を推薦するような動きがあると聞いていますし、北海道も、北海道の中で決めていただくという動きになってきています。

Q：顧問の先生方が多いのに驚きました。普通は数名だろうと思っていたので他の会とちょっと違うのかなという印象をもっています。

A：一般的には名誉会員ということでしょうか。当会では名誉会長の称号はありますが名誉会員という称号はありません。その分顧問の数が多くなっているのではないかなと思っております。

9. Q：5月16日の朝日新聞に出ていたのですが、従来の標榜診療科名を減らして新しい標榜科を追加することに対する情報はありますか？

A：現在、医療法施行令に限定列挙している33診療科名を患者・国民にとってわかりやすい基本領域に関するものだけとし、ほかに「専門性の高い診療科（いわゆるサブスペシャリティー）等の内容」と合わせることでより自由でわかりやすい表記ができるようにする方向になっています。現在の標榜科は37、医科33、歯科3ですが、医科の見直し案では「内科、精神科、小児科、外科、整形外科、形成外科（美容外科）、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科（産科、婦人科）、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科（臨床検査科）、救急科」の16を基本領域に、そしてサブスペシャリティーとして、アレルギー、とかりウマチとか人工透析……を付け加える方向です。

診療所において勤務している医師1人について「主たる診療科名」を原則二つ以内とし、その他の診療科名を「従とする診療科」（サブスペシャリティー）として区別する表現方法とするような内容となっています。例えば主「内科、放射線科」、従「人工透析科」というように表現するようです。従は小さい文字であるのかカッコで囲むのか定かではありませんが。

ほかに「厚生労働大臣の許可を得た診療科名」として麻酔科がありますが、それを「麻酔科」と新規に「総合科」を加えたい意向のようです。日本医師会では総合科については今までやってきたことをわざ

わざと専門化する必要があるのか疑問視しているようです。

この点に関して、日本透析医会は日本透析医学会と共同で、標榜科としての「透析科」を新設していただくよう、すでに要望書を提出しました。

Q：ありがとうございました。いま質問させていただいたのは、診療報酬の調査結果を見る場合、正式な診療科でないと統計が出ないのです。透析は泌尿器科の中に含まれていたりしますので、今後医会としても医学会としても人工透析科とか透析科の標榜にご尽力くださるようお願いいたします。

A：標榜名として、人工透析科，腎透析科，単なる透析科がよいのか皆さまのご意見がいただきたいところです。

（文責 杉崎弘章）

(社) 日本透析医会通常総会議事録

1. 会議の種類 平成19年度 通常総会
1. 開催場所 ホテルマイステイズ御茶ノ水 ホールA (東京都千代田区神田淡路町2-10-6)
1. 開催日時 平成19年5月20日(日) 午後14時00分~15時30分
1. 会員総数 1,198名
1. 出席会員数 620名 内訳 本人出席 29名 書面出席 591名

1. 議事の経過

定刻に到り、事務局長水本進氏から「本日の通常総会出席会員数は、定足数を満たしたので有効に成立した。」旨、告げられた。

初めに会長山崎親雄氏から挨拶があり、併せて本日の総会議長の選出が諮られ、満場一致をもって副会長吉田豊彦氏が選任された。

吉田議長は、挨拶に続き議事録署名人に常務理事の小野山攻氏及び、鈴木正司氏の両名を指名し、両名とも満場一致で選任された。

続いて議案の審議に入った。

第1号議案 平成18年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料に基づき事業報告について、1. 会議 2. 委員会 3. 会務報告の順に説明があり、併せて専務理事杉崎弘章氏から、収支決算について詳細な説明が行われた。引続いて監事伊原美好氏から「平成18年度決算の監査結果は、妥当であった。」旨、報告された後、議長による採決が行われ、満場一致で承認された。

第2号議案 平成19年度事業計画及び予算の承認を求める件

常務理事山川智之氏から、総会資料により前年度事業実績に基づく19年度事業計画(案)の概要の説明があり、続いて専務理事杉崎弘章氏から、予算(案)の説明が行われた後、議長による採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

第3号議案 役員の任期満了に伴う新役員の承認を求める件

会長山崎親雄氏から「退任される小野利彦理事の後任に、青木正氏を選任する。それ以外の理事の方々については総て再任とする。」旨、新役員選任(案)の説明があり、議長による採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

第4号議案 その他

(1) 顧問就任についての承認を求める件

会長山崎親雄氏から「今回役員を退任される小野利彦理事について顧問に選任したい。」旨、提案があり議長による採決の結果、満場一致で承認された。

(2) 質疑応答「次回診療報酬改定の要望事項」等、自由活発な討論が行われた。

15時30分をもって、通常総会の議案総てを終了し、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長並びに議事録署名人がこれに署名押印する。

平成19年5月20日

社団法人日本透析医会通常総会に於いて

議長 吉田豊彦 

議事録署名人 川野山政 

同 鈴木正司 

(社) 日本透析医会 役員名簿

役 職 名	氏 名	現 職
会 長	山 崎 親 雄	増子クリニック 院長
副 会 長	吉 田 豊 彦	医療法人社団誠仁会 理事長 (みはま病院)
	大 平 整 爾	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 院長
専務理事	杉 崎 弘 章	医療法人社団心施会 理事長 (八王子東町クリニック)
常務理事	小野山 攻	医療法人小野山診療所 理事長
	鈴 木 正 司	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 院長
	山 川 智 之	特定医療法人仁真会 理事長 (白鷺病院)
	隈 博 政	医療法人くま腎クリニック 理事長
	太 田 圭 洋	医療法人名古屋記念財団 理事長 (名古屋記念病院)
理 事	井 形 昭 弘	名古屋学芸大学 学長
	太 田 和 夫	太田医学研究所 所長
	山 下 眞 臣	社団法人日本国民年金協会 顧問
	澤 宏 紀	
	前 田 憲 志	医療法人有心会 理事長 (大幸砂田橋クリニック)
	藤 見 惺	医療法人医心会福岡腎臓内科クリニック 院長
	松 田 鈴 夫	国際医療福祉大学 教授
	秋 澤 忠 男	昭和大学医学部腎臓内科 教授
(北海道)	戸 澤 修 平	医療法人北辰 クリニック1・9・8 札幌 理事長
(東北)	関 野 宏	医療法人宏人会 理事長 (宏人会中央病院)
(東北)	村 上 秀 一	医療法人三良会 村上新町病院 院長
(関東)	黒 田 重 臣	くろだ明大前クリニック 院長
(関東)	秋 葉 隆	東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門 教授
(甲信越)	土 屋 隆	医療法人輝山会 理事長 (輝山会記念病院)
(中部)	指 出 昌 秀	医療法人社団一秀会 理事長 (指出泌尿器科)
(関西)	宮 本 孝	医療法人平生会 理事長 (宮本クリニック)
(関西)	青 木 正	社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院 顧問
(中国)	土 谷 晋一郎	医療法人あかね会 理事長 (土谷総合病院)
(中国)	山 下 達 博	医療法人社団博寿会 理事長 (山下医院)
(四国)	寺 尾 尚 民	医療法人尚腎会 理事長 (高知高須病院)
(九州)	新 里 健	医療法人社団健昌会 理事長 (新里ネフロクリニック)
監 事	今 忠 正	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 理事長
	岩 月 史 郎	弁護士
	伊 原 美 好	公認会計士
名誉会長	稲 生 綱 政	医療法人大坪会 東和病院 名誉院長
	平 澤 由 平	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 顧問